



～SDGsを道標（みちしるべ）としたサステナビリティ取組～

「GEO Week 2018」にて“気候変動の適応”をテーマにブースを出展

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社（社長：柄澤 康喜）と、傘下の三井住友海上火災保険株式会社（社長：原 典之）（以下、総称して「当社グループ」）は、10月29日から開催される「GEO Week 2018」に“気候変動の適応”をテーマとした「MS&ADブース」を出展します。

「GEO Week 2018」は、地球観測に関する政府間会合（※）事務局および文部科学省が主催するイベントで、今年は「地球観測におけるSDGs・気候変動・防災への貢献」をテーマに、さまざまなプロジェクトに関わる各国政府、学術界、産業界等の関係者600名程度が世界各地から集結します。

「MS&ADブース」では、異常気象の損失に備える気象衛星等のデータを活用した天候デリバティブや、気候変動による「洪水リスクの大規模評価」の産学連携プロジェクトの取り組みを紹介します。

当社グループは、2030年に目指す社会像を「レジリエントでサステナブルな社会」と定め、国連が2015年に策定したSDGs（持続可能な開発目標）を道標（みちしるべ）として、企業活動を通じた社会との共通価値の創造に取り組んでいきます。

（※）地球観測に関する政府間会合（GEO: Group on Earth Observations）

衛星、海洋および地上観測を統合した複数の観測システムからなる全球地球観測システム（GEOSS: Global Earth Observation System of Systems）を推進するための国際的な枠組として設立されました。

1. 「GEO Week 2018」の概要

（1）日時：10月29日（月）～11月2日（金）

【出展期間：10月30日（火）～11月1日（木）】

（2）場所：国立京都国際会館（京都府京都市左京区）

（3）主催：地球観測に関する政府間会合事務局および文部科学省

（4）内容：展示スペースでは、以下のGEOの優先連携3分野に特化した内容を扱います

- ① 持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）
- ② 気候変動－温室効果ガス観測
- ③ 防災



2. 「MS&ADブース」での出展内容

（1）天候デリバティブ

三井住友海上は、世界の天候リスクを扱う100%子会社「MSI GuaranteedWeather 社（米・カンザス州）」と連携し、昨今の異常気象に伴う経営リスクをヘッジする手段として有効な天候デリバティブ商品を提供しています。また、地上観測データのほか、衛星観測データを活用することで、従来は引き受け困難な地域でも対応可能です。

（2）洪水リスクの大規模評価

当社グループは、芝浦工業大学工学部の平林教授および東京大学生産技術研究所の山崎准教授協力のもと、気候変動に伴う洪水頻度の変化を長期的に予測した結果を、Web-GIS（地理情報システム）上で閲覧できるプラットフォームを立ち上げました。企業のお客さまが被る長期的な洪水被害の影響を簡易的に把握することができます。

以上

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社について

MS&ADホールディングスは、三井住友海上火災保険株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社などのグループ保険会社を有する保険持株会社です。グローバル市場での業界トップ水準の保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、「活力ある社会の発展と地球の健やかな未来」を実現する価値創造企業として、世界47の国・地域で事業展開しています。未来のあるべき姿を目指し、ステークホルダーの皆さまと、社会的な価値の共創に取り組んでいます。

当社グループのミッションである「活力ある社会の発展と地球の健やかな未来」を目指し、2015年より国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みを強化しています。特に、気候変動や生物多様性については、グループ内のあらゆるリソースを活用し、最も困難な課題に対する世界的な解決に注力しています。